令和5年度　学校評価

伊予市立由並小学校　　令和6年　2月

【評定基準】　A：目標を達成　　B：8割以上達成　　C：8割未満の達成
【評価基準】　◎：8割以上が肯定　〇：6割以上が肯定　△：6割未満が肯定
【アンケート】　4：大変よい　3：よい　2：あまりよくない　1：よくない

※　複数のアンケート資料がある場合には、それらの評価のうち一番低い評価をもって評定をしている。
　アンケート以外の資料がある場合については、その実現状況を加えて評定している。

項目	小項目（重点目標）	評価指標及び目標値	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	集計結果（%） 4	3	2	1
教育課程・学習指導	確かな学力の定着と向上	一人一人が分かるできる喜びを味わい、やる気がわく授業づくりを進めているか 目標値：教職員、児童、保護者の80%以上が肯定（3・4）	B	一人一人が分かるできる喜びを味わうことができるように、多様な教材（デジタルコンテンツを含む）を効果的に活用したり、個々の学びが深まるように一人一台端末を用いた調べ学習や課題への取組を充実させたりするなど、ICT機器の活用を工夫した。また、やる気がわく授業となるように、児童同士が自分の考えを伝え合い、互いの学びを共有するなど、協働的な学びの場を効果的に取り入れた。複式の学級における授業を進めるに当たって、指導者がついていない時間帯の主体的な学習の基盤づくりをするために、学習ガイド（児童が先生の代わりに学習指示を出して学習を進める）の育成を進めていきたい。	児童アンケート	◎	31	53	14	2
					教職員アンケート	◎	0	100	0	0
					保護者アンケート	〇	8	65	19	8
		学年の発達段階に応じた学力が身に付いているか 目標値：教職員、児童、保護者の80%以上が肯定（3・4） 学力調査で国や県の平均値以上	B	児童の自己評価と教員・保護者の評価に隔たりがある。単元別テストの知識・技能の正答率は学年が上がるにつれて下がっている。また、その学年に必要な基礎・基本の技能が身に付いていないために、学年が上がるにつれて該当学年の授業の理解が困難になっている児童もいる。その学年、時期に応じた基礎的・基本的な知識・技能が身に付くよう、児童の学習の定着度を把握しながら、復習の機会を定期的、継続的に確保して、知識・理解の定着に努めたい。また、全学年共通で、学年の目標学習時間に見合う量や質の宿題を出し、家庭と連携しながら家庭学習の習慣化を図りたい。	児童アンケート	◎	24	60	14	2
					教職員アンケート	〇	0	75	25	0
					保護者アンケート	◎	16	65	14	5
		互いの思いを伝え合う豊かな表現力が身に付いているか 目標値：教職員、児童、保護者の80%以上が肯定（3・4）	B	発達段階に応じた表現力や思考力には課題があるが、全教科の学習活動を通して、学級内でペアや小集団、全体で自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いたりする習慣は身に付いている。学年を越えた枠では、学年が下がるほど自分の考えを伝える自信がなかったり、聞き手側の立場になったりする児童が多い。よって、縦割り班活動の集団で与えられたテーマに従って話し合い、伝え合う場を設定して、自分の考えを持つこと、伝えることに自信をつけさせたい。さらに、思考力を伴った書く力を育てるために、授業の中で、条件に沿って自分の考えをまとめて書く活動や、具体的に振り返って書く活動にさらに力を入れて取り組みたい。	児童アンケート	◎	43	43	9	5
					教職員アンケート	〇	0	67	33	0
					保護者アンケート	〇	8	65	24	3
		進んで読書活動を実施し、読書習慣が身に付いているか 目標値：教職員、児童、保護者の80%以上が肯定（3・4）	C	自ら図書室に足を運んで読書活動を行う児童は少なく、読書習慣が身に付いているとは言えないため、週に1回以上は学級で図書室を利用する時間を設けた。一人一台端末（EILS機能）のみきゃん通帳に記録することを言葉掛けしながら読書時間の確保に努めてきた。引き続き、学級文庫の定期的な入れ替えを行ったり、全校の場で多読の児童を賞賛したり、図書委員会を中心に読書活動を啓発したりする取組に努めたい。	児童アンケート	△	33	24	33	10
					教職員アンケート	△	0	57	29	14
					保護者アンケート	△	13	30	41	16
		家庭学習の習慣が身に付いているか 【　（学年×10分＋10分）以上　】 目標値：教職員、児童、保護者の80%以上が肯定（3・4）	B	児童によっては家庭学習の習慣が身に付いていなかったり、全校的にも週末の家庭学習の習慣が身に付いていなかったりする。全学級担任共通認識の基、（学年×10分＋10分）程度の家庭学習に取り組めるよう、質や内容を工夫した課題、復習的な内容の課題、一人一台端末を活用した課題など、宿題の出し方の工夫を図りたい。また、音読カード等に毎日の家庭学習にかかるおおよその時間を記録させ、宿題の量の調節を行いたい。実態を把握して個に応じた配慮を図りながら、家庭と連携して、家庭学習習慣の定着に努めたい。	児童アンケート	〇	38	31	31	0
					教職員アンケート	〇	0	67	33	0
					保護者アンケート	〇	14	51	27	8
		タブレットなどを活用して、情報を収集したり、適切に選んだりすることができているか 目標値：教職員、児童、保護者の80%以上が肯定（3・4）	B	一人一台端末が割り当てられ、積極的な活用が図られた。授業場面や校内で、目的に応じて使用することを原則にしており、児童はその中で使用する経験を積んでいる。情報収集や情報選択の意識については個人差が大きいため、段階的に意図的に学ばせていく必要がある。保護者と連携しながら、学校に限らず家庭でも、学習効果を上げるために主体的に活用できる児童を育てていくことを目指したい。	児童アンケート	◎	57	26	0	17
					教職員アンケート	〇	14	57	29	0
					保護者アンケート	△	16	38	35	11
		インターネット上の情報をうのみにせず、適切な情報か判断できているか 目標値：教職員、児童、保護者の80%以上が肯定（3・4）	B	インターネット活用主体の児童は、適切に判断できていると自覚しているが、児童を取り巻く大人の方が警戒や心配をする傾向がある。情報モラル教育のためにPTAを含めて学ぶ機会を設けたり、日頃の使用場面の中で実感を伴って学ばせたりする必要がある。インターネット上の情報を適切に判断する力を付けるために、周囲の見守りを確実にしながら、大人と子どもが共に学び合う態度を大切にする。	児童アンケート	◎	67	14	5	14
					教職員アンケート	△	0	57	43	0
					保護者アンケート	〇	0	69	28	3
	学校関係者評価委員の所見	・読書活動の関心に関する評価が低いことが気になる。読書は生活に直結しているので、学校で読書の魅力を伝える工夫を継続して取り組んでほしい。 ・以前に適切な本を選び、1週間に一人ずつリレー形式で本を回しながら読んだことがあった。クラス全体の読書への関心を高めることが大切である。 ・情報活用について大人の心配する結果が出ているのは、健全な結果である。情報モラルや学習におけるタブレット端末等の活用などについて、保護者に情報を発信し、ともに学習していくことが大切である。		学校の対応	・個別最適な学びの実現のために、一人一台端末を効果的に活用できるように、教職員の研修や情報交換を引き続き重ねていく。また、情報の効果的な活用や情報モラルについて、学校と家庭が連携して学んでいく機会を増やし、確かな学力の向上・定着につなげていきたい。 ・複式での学習の仕方については、「伝え合い、学び合う」活動の研究を継続し、協働的な学びを深めていく。 ・読書活動の関心を高めるために、引き続き県立・市立図書館の利用を通して、児童に様々な分野の図書に親しむ機会を設ける。読み語り隊の方々と協力して、子ども読み語り隊や図書委員の読み語りなどを通して、読書の楽しさに触れる機会を設ける。						

教育課程・学習指導	心の教育の充実	児童の心に響く道徳教育を実施しているか 目標値：教職員、児童、保護者の80％以上が肯定（3・4）	A	行事や校外学習等を通して、互いのよさを認め合ったり、協力して取り組んだり、自己の目標に向かって努力したりする姿が見られた。また、地域の方やゲストティーチャーに触れ合い学ぶことで、学びをより確かなものにしたり、自己の生き方について考える機会を得たりすることができた。各教育活動での道徳教育が児童の心に響くよう、児童の実態を踏まえ、意図的・計画的な実践に努めたい。	児童アンケート	◎	60	35	5	0
					教職員アンケート	◎	33	67	0	0
					保護者アンケート	◎	19	76	5	0
		明るい挨拶ができる児童が育っているか 目標値：教職員、児童、保護者、地域住民の80％以上が肯定（3・4）	B	１学期に比べると、少しずつ挨拶の声が大きくなってきた。しかし、まだ「いつでも」「一人でも」「だれにでも」気持ちのよい挨拶ができているとは言いがたい。各学級で根気よく指導を続けるとともに、登校指導や下校指導の中でも時と場に応じた挨拶について指導したい。また、運営委員会やボランティア委員会を中心に挨拶運動を行ったり、気持ちのよい挨拶をしている児童を紹介したりするなどしてさらに意欲を高めたい。	児童アンケート	◎	47	43	5	5
					教職員アンケート	○	0	78	11	11
					保護者アンケート	◎	24	68	8	0
					地域住民アンケート	◎	80	20	0	0
		縦割り班活動を生かした温かな集団づくりに努めているか 目標値：教職員、児童、保護者の80％以上が肯定（3・4）	A	縦割り班活動や毎日の清掃活動などを通して交流を深め、よい人間関係を築きつつある。２学期には学校行事も多く、上学年が下学年を思いやる姿も多く見られた。３学期は、縄とび集会や縦割り班ウォークラリー、６年生を送る会などの多様な縦割り班活動を計画しており、さらにつながりを深め、よりよい集団づくりができるよう努めたい。	児童アンケート	◎	74	21	5	0
					教職員アンケート	◎	37	63	0	0
					保護者アンケート	◎	39	61	0	0
	健やかな心身の育成	「早ね・早起き・朝ご飯」の習慣が身に付いているか 目標値：教職員、児童、保護者の80％以上が肯定（3・4）	A	生活チェック週間の記録カードを通して、「早寝・早起き・朝ご飯」など、規則正しい生活習慣の定着を図っている。記録カードの得点が低い児童を中心に個別の健康相談を実施し、個別対応に努めている。また、毎月のほけんだよりで各学年の結果や課題点等を家庭に伝えている。その結果、規則正しい生活を意識できるようになった児童もいるが、1学期を通して、改善が見られない児童もいた。共通の課題としては、テレビやゲームの長時間利用や就寝時刻が遅いことが挙げられ、今後も本人だけでなく家庭に情報発信しながら連携に努めていかなければならない。	児童アンケート	◎	64	24	12	0
					教職員アンケート	◎	29	71	0	0
					保護者アンケート	◎	43	49	8	0
		運動や外遊びなど、進んで体を動かすことができているか 目標値：教職員、児童、保護者の80％以上が肯定（3・4）	B	生き物探し、遊具、一輪車、鬼遊び、サッカーなど、屋外で休み時間に体を動かす児童が多い。学級の遊び企画や異学年交流も見られ、友達との関わりが外遊びと大きく関わっている。一方で、運動の習慣が身に付いていない児童は、体育科の授業以外ではほとんど体を動かす機会を持てずにいる。今後も体育的行事を好機として、縦割り班遊びの充実に努めていく。全校児童が体を動かすことの楽しさや喜びを味わい、豊かな関わりの中で運動に親しんでほしい。	児童アンケート	◎	62	29	7	2
					教職員アンケート	◎	63	25	12	0
					保護者アンケート	○	27	43	27	3
		学年の発達段階に応じた体力が身に付いているか 目標値：教職員、児童の80％以上が肯定（3・4） 新体力テストでC級以上の児童が80％以上	B	新体力テストの結果から「すばやさ」「タイミングの良さ」「力強さ」においてやや高い評価となっている。一方で、「動きを持続する能力」と「体の柔らかさ」が全国平均より下回っていることが分かった。また、運動習慣の二極化は依然として課題といえる。本年度の課題に応じて体力アップ推進計画を作成し、体育科の授業やマラソン・縄跳びの取組を充実させて、全員に運動のやりがいや達成感を味わわせるように努める。年度末には再測定を行い、取組の効果を検証する。	児童アンケート	◎	57	31	10	2
					教職員アンケート	◎	25	63	12	0
					保護者アンケート	○	24	54	22	0
					新体力テスト(%)	◎	A18.6 B34.9 C30.2 D11.6 E4.7 C級以上の割合83.7			
		自他の命を大切にしようとする態度が育っているか 目標値：教職員、児童、保護者の80％以上が肯定（3・4）	A	道徳教育や縦割り班活動を通して、思いやりの心や豊かな人間関係の形成を目指している。1学期は十分な縦割り班活動の時間を持つことができなかったが、2学期にはくすのきタイムで「由並小をより良くするために」をテーマに縦割り班で話し合い、いじめや差別をせず、全員が気持ちよく学校生活を送れるように意見を伝え合い、まとめる活動を行った。今後も、日常的な一人二鉢栽培や定期的な避難訓練を通して、自他の生命を守り、大切にする態度を育てていきたい。	児童アンケート	◎	81	17	2	0
					教職員アンケート	◎	25	75	0	0
					保護者アンケート	◎	57	38	5	0

学校関係者評価委員の所見	・道徳教育を教育の根本として大切にしてほしい。学校に二宮金次郎の銅像があるが、読んでいる本は何か、どのような思いで設置されたのか、内村鑑三「代表的な日本人」の一人であるがどのような功績があるのかなど、身近で具体的な題材として、もっと教員も研究してほしい。読書にもつながればよい。 ・テレビやゲームの長時間利用が気になる。規則正しい生活習慣は、様々なことの基盤であるので、粘り強く子どもと保護者に働きかけていく必要がある。	学校の対応	・学校の様々な教育活動での道徳教育を意図的・計画的に実践し、児童が主体的に互いのよさを認め、尊重し合う温かな集団づくりに関われるように努める。 ・生活チェックは、規則正しい生活習慣を児童が保護者と共に意識できる機会であるため、今後も継続していく。保護者の協力を得ながら、「早寝・早起き・朝ご飯」やテレビやゲームの利用時間、運動習慣などの基本的な生活習慣を振り返る機会を設ける。 ・体力アップについては、引き続き外遊びを奨励していくとともに、体育科の授業やマラソン、縄跳びなどの充実を図る。

項目	小項目（重点目標）	評価指標及び目標値	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	集計結果（%） 4	3	2	1
生徒指導、人権・同和教育	よりよい人間関係づくり	互いのよさを認め合い、支え合う仲間づくりができているか 目標値：教職員、児童、保護者の80%以上が肯定（3・4）	A	各学級のグランドデザインや道徳の指導計画のもと、学校生活のすべての活動の中で、よりよい人間関係づくりに取り組んでいる。毎月の「キララさんカード」でいろいろな友達のよさを見付けたり、縦割り班で活動したりすることで学校全体で豊かな人間関係を築いている。また、学級の枠にとらわれず学校全体で児童の支援に当たっており、今後も児童一人一人を大切にしながらよさを認め合い、支え合う仲間づくりに努めたい。	児童アンケート	◎	62	31	7	0
					教職員アンケート	◎	0	88	12	0
					保護者アンケート	◎	19	78	3	0
	生徒指導の徹底	児童理解に努め、児童の悩みに積極的に対応し、いじめ・不登校の早期発見・早期対応に努めているか 目標値：教職員、児童、保護者の80%以上が肯定（3・4）	B	毎月実施している実態調査「いきいきゆなみっこ」を生かし、児童の悩みを早期発見し、対応するようにしている。保護者からの相談があったときには真摯に対応し、協力して児童の支援に当たるようにしてきた。今後も、学校と家庭が一体となって児童を支える体制を続け、しっかりと児童の話を聞き、一人一人に寄り添える教育相談を心掛けたい。また、教育相談員との連携もさらに深めていきたい。	児童アンケート	◎	62	33	5	0
					教職員アンケート	◎	29	71	0	0
					保護者アンケート	○	20	59	18	3
		全教職員で、情報を共有し、共通理解のもと、児童の指導に当たっているか 目標値：教職員の80%以上が肯定（3・4）	A	職員会の中で児童理解のための情報交換を取り入れており、共通理解を図って全教職員で指導に当たれるようにしている。また、生徒指導主事から、月目標と併せて重点目標を示し、積極的な生徒指導が進められるようにしている。今後も、全教職員で児童を見守り、育てるという意識を高めていきたい。	教職員アンケート	◎	38	50	12	0
		学年の発達段階に応じた規範意識が身に付いているか 目標値：教職員、児童、保護者、地域住民の80%以上が肯定（3・4）	B	学級での日常の指導及び、地区別児童会を通して交通安全やきまりなどについて指導している。また、集団を構成する一員としての規範意識を身に付けるために学校行事や縦割り班活動も大切な学びの場であり、上級生を見て学ぶという機会になっている。今後も全教職員で具体例を示しながら場に応じた行動ができるよう指導に当たっていきたい。	児童アンケート	◎	74	26	0	0
					教職員アンケート	○	0	63	37	0
					保護者アンケート	◎	38	56	6	0
					地域住民アンケート	◎	60	40	0	0
	学校関係者評価委員の所見	・地区別児童会は、今はどのような区分けで行われているのか。以前は、地区ごとに子ども会が組織され、自主的な活動がなされていたが、だんだんと難しくなってきていると理解している。		学校の対応	・定期的に児童についての情報交換を行い、全教職員が共通理解の下で、児童の指導に当たることを継続する。また、毎月の実態調査を生かすとともに、日常の何気ない言動や保護者との情報交換などを通して、きめ細かな児童理解に努める。 ・日頃から教育相談員や諸機関との関係を深め、必要に応じて適切な連携が取れるようにする。					

項目	小項目（重点目標）	評価指標及び目標値	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	集計結果（%） 4	3	2	1
安全管理	安全・安心な学校づくりの推進	避難訓練などを適切に実施して、児童や教師に安全対応能力が身に付いているか 目標値：教職員、児童、保護者の80%が肯定（3・4） 避難訓練毎学期実施	A	6回の避難訓練（火災/土砂災害/引き渡し/地震・津波/昼休み・通報訓練・消火訓練/シェイクアウトえひめ）を実施することができた。「自分の命は自分で守る」ことを意識するとともに、避難の手順や経路を確認することができ、児童の防災意識を向上させることができたと考える。引き渡し訓練を早い時期に実施できたこともよかった。実際に訓練を行うことで、避難の際の移動経路や集合場所のスペースのことなどの課題が明らかになり、安全確保のための対応について、改めて考えることもできた。	児童アンケート	◎	81	17	2	0
					教職員アンケート	◎	75	25	0	0
					保護者アンケート	◎	53	47	0	0
		家庭や地域との連携を密にした地域ぐるみの見守り活動ができているか 目標値：教職員、保護者、地域住民の80%が肯定（3・4）	A	毎月の交通安全の日や交通安全運動期間中などには、交番や地域の方、保護者が定期的に見守り活動を行ってくださっており、児童の安全確保につながり、大変ありがたい。また、スクールガードリーダーの方にも児童の様子を見守っていただいている。3学期には不審者対応の避難訓練も行う予定であり、今後も時と場に応じた安全指導に力を入れていきたい。	教職員アンケート	◎	12	88	0	0
					保護者アンケート	◎	47	47	6	0
					地域住民アンケート	◎	60	40	0	0
	学校関係者評価委員の所見	・知らない人の出入りが心配である。校門は閉めるようにしていると思うが、以前に、知らない人の学校のトイレ使用や、学校付近に不審な車の駐車があったので、警戒は怠らないようにお願いしたい。 ・国道横断時の交通事故が心配である。救急車のサイレンをよく耳にするので、児童への指導をお願いしたい。		学校の対応	・「命はひとつ」の教育を避難訓練を含め、様々な機会を捉えて確認し合い、「自分の命は自分で守る」という意識を高めていきたい。 ・自分たちの安全のために、多くの方が見守り活動を行ってくださっていることに感謝の思いを深められるような適切な言葉掛けを行っていく。					
情報提供・保護者、地域住民等との関係	開かれた特色ある学校づくりの推進	地域の自然や文化、人々とのかかわりを大切にした学習ができているか 目標値：教職員、児童、保護者、地域住民の80%以上が肯定（3・4）	A	生活科や総合的な学習、社会科などで、地域の施設に出向いて見学をしたり、地域の施設や人材を活用した学習を展開したりしている。直接触れ合ったり教わったり体験したりすることからの学びは大きい。今後も、地域の自然や文化、人々との関わりを大切にした学習を行っていきたい。	児童アンケート	◎	79	21	0	0
					教職員アンケート	◎	33	67	0	0
					保護者アンケート	◎	47	50	3	0
					地域住民アンケート	◎	80	20	0	0
		学校の教育活動に関する情報提供を積極的に行い、保護者や地域住民の理解を得ているか 目標値：教職員、保護者、地域住民の80%以上が肯定（3・4） 学校・学年便り月1回発行、HP随時発信	A	ホームページの更新を適切に行うことにより、日々の学校での児童の活動を発信することができた。また、学校便りを地域に回覧し、学校の様子を知っていただくための情報提供を行うことができた。今年度は、学校の行事が通常通り行えることが増えているので、保護者や地域の方への情報提供にさらに丁寧に取り組み、保護者や地域の方の理解と協力を得られるように努めたい。	教職員アンケート	◎	56	44	0	0
					保護者アンケート	◎	50	47	3	0
					地域住民アンケート	◎	60	40	0	0
		公民館や老人会など、地域の関係団体との連携に努めているか 目標値：教職員、保護者、地域住民の80%以上が肯定（3・4）	A	双海町こども教室や双海地区校区別研修会などの公民館主催の事業への積極的な参加を通して、児童と教職員が様々な学びの機会を得ることができた。学校としても、事業の趣旨に賛同し、可能な範囲での協力に努めることができた。参加している児童に対しては、こうした取組が多くの方の協力に支えられて行われていることを伝え、感謝の思いを深められるような適切な言葉掛けを行いたい。	教職員アンケート	◎	38	50	12	0
					保護者アンケート	◎	47	47	6	0
					地域住民アンケート	◎	80	20	0	0
	学校関係者評価委員の所見	・中学生や高校生などが、休日に運動場をサッカーの練習などで使用することは、活動の場が他にはない状況を踏まえて、できれば今後も認めてほしい。 ・地域（保育所等）との交流活動の再開を期待している。		学校の対応	・自分たちの学校や地域に誇りや愛着が深まるように、地域の自然や文化、人々との関わりに関する学習を大切にしていく。 ・ホームページや学校便りなどで、学校の様子を知ってもらうための情報提供に引き続き努めていく。					

組織運営	校内組織運営の充実・事務管理	学校の教育目標の具現化に向けた学年のグランドデザインの立案・実践・評価・改善ができているか 目標値：教職員の80%が肯定（3・4）	A	教職員一人一人が教育目標を具現化するための具体的な目標を設定し、定期的に振り返っている。また、学期ごとに評価を行い、課題を検討し、よりよい実践に努めている。学校行事の立案の際にも目的を明記し、共通理解を図っている。今後も教育目標の具現化に向けて、校長のリーダーシップのもと、教職員が連携や協力をしながら取り組んでいく。	教職員アンケート	◎	40	60	0	0
		報告・連絡・相談・確認を密にして、組織として問題に対応しているか 目標値：教職員の80%が肯定（3・4）	A	学校運営上の問題や生徒指導上の問題行動等が起きた場合は、管理職への速やかな報告を第一に行い、その指導に基づいて教職員が共通理解を徹底した上で早期対応に努めている。今後も一層「報告・連絡・相談・確認」の徹底を図り、組織的な対応に努めていきたい。	教職員アンケート	◎	50	50	0	0
		校務分掌の適切な実施と情報管理ができているか 目標値：教職員の80%が肯定（3・4）	A	教職員の資質や能力、経験などを考慮して適切な校務の分担を行い、一部の教職員に過度の負担がかかりすぎないようにしている。しかし、教職員数の減少や複式学級の増加により、一人一人の負担が大きくなっているのも事実である。仕事の軽重をつけたり教職員間での連携や協力を密にしたりしながら取り組んでいきたい。情報管理については、管理職の指導のもと、個人情報の流出や紛失には十分に注意し、（児童名簿の保管、USBのデータ管理等、）セキュリティ管理の厳正化に努めている。	教職員アンケート	◎	12	76	12	0
		教職員の業務改善に向けて、意識改革が進められ、具体的な取組がなされているか 目標値：教職員の80%が肯定（3・4）	B	教職員一人一人の負担が増えている。管理職を中心に複数の目で業務のチェックや行事の精選を行い、改善してきたが、抜本的な改革とまでは言えないので、教職員数や児童数に応じた行事の内容を工夫するなど、今後も継続的に実施できるよう計画的に取り組みたい。	教職員アンケート	○	0	63	25	12
	学校関係者評価委員の所見	・教職員の負担軽減の余地が本当にあるのか心配になる。行事の精選を行い、基礎的・基本的な学力をしっかりと高めることが求められていると思う。		学校の対応	・教職員一人一人が、教育目標の具現化のために具体的な目標を設定し、目標に向かって取り組むとともに、見直すサイクルを構築しながら改善に努める。 ・教職員がゆとりをもって児童に向き合える時間を確保するために、業務改善及び勤務時間を意識した働き方改革に全教職員が協力して取り組み、心身の健康管理と働きがいのある職場環境づくりに努める。					

項目	小項目（重点目標）	評価指標及び目標値	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	集計結果（%）			
							4	3	2	1
研修	教職員の資質・能力の向上	一人一人が学び合う校内研修ができているか 目標値：教職員の80%以上が肯定（3・4）	B	「伝え合い、学び合う」活動を中心とした授業の工夫や豊かな関わりを大切にした体験活動の充実を研修の柱として実践に取り組んだ。授業研究部では、児童が学び合う場の工夫について検討を行い、学習過程や指導方法を工夫しながらICTを活用した授業実践に取り組んだ。環境研究部では、伝え合い・聞き合い・話合いを取り入れた「くすのきタイム」や、互いのよさを伝え合う「キララさんカード」の計画実践を通して、自己を見つめ、よりよく生きようとする児童の育成に努めた。	教職員アンケート	○	12	63	25	0
		反省・評価を生かし、授業改善に努めているか 目標値：教職員の80%以上が肯定（3・4）	A	「分かる・できる・やる気がわく」授業を目指し、日々の授業実践に取り組んでいる。互いに授業公開を行い、授業評価シート等を活用し、相互評価・自己評価を行い授業改善に努めた。これらを活用し、目標と指導と評価の一体化を目指したい。	教職員アンケート	◎	14	86	0	0
		校外研修などに意欲的に参加しているか 目標値：教職員の80%以上が肯定（3・4） 一人一回以上研修の受講	A	それぞれの校務に応じた研修会に参加し、研修を深めることができた。しかし、一人が多くの校務や主任を抱えており、研修会が重なったり多くの研修会への参加が必要になったりすることがある。それぞれがゆとりを持って研修できるよう考えていかなければならない。	教職員アンケート	◎	38	50	12	0
	学校関係者評価委員の所見			学校の対応	・今後の児童数減少に伴い、複式学級が増えることを踏まえ、「伝え合い、学び合う」活動を取り入れた授業について研修を進めてきた。引き続き、学習過程や指導方法の工夫や一人一台端末を活用した授業実践、温かな集団づくりにつながる話合い活動の充実に努めたい。 ・児童によりよい学びを提供できるように、主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善を図り、ICTや地域の教育資源を活用できる教職員の資質・能力の向上に努めていく。					